

友達となかよく遊んでほしい



Q 近所に友達がいない

近所に同じ年頃の友達がいないので一人遊びが多く、いつも家の中で遊んでいます。友達との関わりも上手くできないのではないかと心配になります。どうしたらよいのでしょうか？

A 地域の児童館や交流館を利用しましょう

近年、少子化がすすみ、地域でも同じ年頃の子どもと一緒に遊ぶ友達が少なくなりました。また、安全への配慮や遊びの変化で、外で遊んでいる子ども達の姿も見られなくなりました。お近くに子どもの集まる公園や児童館や交流館など、地域に同じ年頃のお子さんが遊べる施設はありませんか。また、児童館や交流館などの催し物などへの参加はいかがでしょうか。同じ年頃の気の合う友達ができるかもしれません。問い合わせをして親子で一緒に遊びに行っても楽しいかもしれませんね。

また、友達との関わりが上手くできないのではとのご心配ですが、3歳頃では、まだ友達との遊びより、自分の好きなおもちゃや遊びに一人で取り組んで楽しんでいる子も多く見られます。一人遊びのようでも、背中合わせで時々話をしたり、お互いに作ったブロックを見せ合ったり、「いいじゃん」「すごいね」などと、会話を交わしたりして楽しんでいる様子も見られます。ほんの少しの関わりから、好きな遊びが一緒に友達になっていく子もいます。

4～5歳頃になると、だんだん友達ができて、友達と一緒に遊ぶ様々な楽しい経験を積み重ねていくことで、友達と遊ぶことが楽しくなっていきます。それでも一人でじっくり遊ぶことが好きな子もいます。一人で遊べるということは、自分の世界がしっかりあるということでもあります。子どもの成長、性格や好みも様々ですので、友達がいなくても園生活を楽しんでいるようならご心配はないと思いますが、園の先生にもご相談になり、お子さんの園での様子をお聞きになったり、同じ園の保護者の方を紹介して頂き、お子さんが降園後、一緒に遊ぶ時間を作ったりするなどなさるとよいと思います。

Q 友達のことを言いつける

友達の中で遊ぶことは好きで元気に園に登園していますが、たびたび友達のことを先生に言いつけに行くことが原因で、友達が離れていってしまい「友達が遊んでくれない」と、悩んでいます。友達と仲良く遊べるようになるにはどうしたらよいのでしょうか？

A まずはお子さんの気持ちを聞いてみましょう

言いつけるということは、大人にとってはあまりよいことではないように思えますが、子どもは成長の過程で「△君がいけないことをやっている」という形で、「このことはやってはいけない」という自分の考えを確かめようとする時期があります。△君のことを言いたいのではなく、やっている行為の事を確かめたい気持ちからそう表現しているので、「そうだね。これはやってはいけないことだね」と、さ



らりと伝えていけば、この時期を抜けていきますが、それが十分にできないと、いつまでも言いつける形で確認が続くこともあります。また、お子さんは真面目で曲がったことが嫌いな性格で、友達のちょっとした行為も気になるのかもしれませんが。しかし、5歳児くらいになっても続くようだと、友達も「一緒にいたくない」と感じるようになり離れてしまうのかもしれませんが。

まずは、「どうして友達のことを先生に言いつけるの?」と、じっくり話を聞いてみてください。お子さんなりの理由があると思います。お子さんの思いを受け止めてあげましょう。5歳頃には、「どこが悪いのか、どうしたらよいのか」などを筋道たてて話せば理解できるようになります。「どうして友達が一緒に遊んでくれないのか」「どこが悪かったのか」「どうしたらいいだろうか」など解決の手立てを考えたり、「友達はどんな気持ちだったのか」など、相手の立場になって気づかせたりしてあげましょう。相手のよい面を褒めたり、お互いの存在を認め合ったりすることで、よい関係を築き、仲良くなれることなどを知らせてあげるのもよいと思います。

お子さんの悩みを解決するための具体的な方法やヒントなどを、園の先生にもご相談になり一緒に解決していくことがよいかと思われま



Q 自分勝手な行動をとる

園で自分勝手なことばかりして周りに迷惑をかけているようです。友達と仲良く遊んでほしいのですが、このままでは友達もできないし友達からも嫌われて仲間はずれになってしまうのではないかと心配してします。どうしたらよいでしょうか?

A 毅然とした態度で話し成長を見守りましょう

集団の中でみんなと一緒に行動するより、自分の好きなことを自分のペースでやっていたいお子さんなのではないでしょうか。園の生活の中で自分ができないことや苦手なことがあると、“どうしたらよいか分からないという行動”が、自分勝手な振る舞いに見えてしまっていることもあるかもしれません。でも、周囲に迷惑をかける自分勝手な行動は困りますね。集団生活の中で、やって良いこと、悪いことなどの善悪のけじめ、集団の中のルールを守る大切さなどは、しっかり身に付けてほしいものです。保護者の方が毅然とした態度でお話することで、良い悪いの規範意識を身に付けていくことができるようになります。根気よく対応してください。

また、自分勝手な行動をして「僕を見て」とアピールする場合がありますが、その場合はお子さんの気持ちを十分受け入れ、その行動を見届けながらも、しっかり向き合って“自分勝手なことをするとなぜいけないのか”“やってはいけないことがあること”“ルールがあること”など、その都度お子さんに分かるように話をしてください。

3歳頃には自分の思いが強く自己中心的で自分勝手な行動が多く見られる子もいますが、成長とともに周囲のことが見えるようになり、友達の存在、相手の気持ち、ルールのあることなどが分かるようになっていきます。生活や遊びの中で「自分勝手なことをしてもみんなに認めてもらえない」「仲間に入れてもらえなくて、ちっとも楽しくない」などの思いを感じていきます。また、順番を守りながら遊びを楽しむ経験、仲間と一緒に遊ぶ喜びを積み重ねることで、少しずつ友達との遊びや活動に参加できるようになっていきます。

「一緒に遊びたい」「やってみたい」「やってみよう」と、思い始めると自分勝手な行動もマイペースな行動も少しずつ改善され、友達と一緒に行動できるようになり、ルールを守って遊べるようになって

いきます。個人差もあり、なかなかすぐにはお子さんの行動が改善されないかもしれませんが、お子さんの成長を長い目で見守り根気よく対応し励ましてください。

なかなか状況が改善されず、周囲に迷惑をかけてしまう、集団行動ができないなどのご心配が続くようでしたら、園の先生や近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）などにご相談してみてもいいでしょうか。



Q 友達とけんかして手や足が出る

けんかをすると、すぐに手がでてしまって相手の子を叩いたり、かじったり、噛み付いたり、キックをしたりするなどの衝動的で自己中心的な行動が多いようです。相手のお子さんに怪我をさせてしまうことがあり心配です。どうしたらよいのでしょうか？

A 具体的な言葉や手立てを教え育ちを見守りましょう

ご心配ですね。お子さんは自分の思いを言葉で相手に十分伝えられない年齢でしょうか？

個人差はありますが3歳頃までは、自己中心的な行動が多く、友達とけんかして“噛みつきやひっかけ”“キックやパンチ”などをしてしまうお子さんが見られますが、言葉が出て相手に自分の思いや気持ちを伝えられるようになると“噛みつきやひっかけ”などのけんかは少なくなっていきます。「入れて」「かして」「ありがとう」など具体的な言葉や手立てを教えて様子を見るとよいかと思います。また、言葉で表現するのが苦手なお子さんもありますので、「困った時は先生に伝えて助けてもらおうといいよ」などと、お子さんに先生に頼ることを知らせておくことも、お子さんにとっては心強いことです。

4～5歳頃になると、相手の気持ちの理解、善悪の区別、約束を守るなどができるようになり、けんかやトラブルも言葉や話し合いで解決できるようになっていきます。「けんかをした時、友達を叩いたりキックをしたりしない」「少し我慢して言葉で伝える」など、お子さんに具体的な手立てを知らせてください。また、気持ちがうっせきしているとけんかになる場合もありますので、戸外で体を動かす楽しい遊びをたくさん経験させ、気持ちを発散させてあげることも大切です。

“自分の気持ちをコントロールする”“相手の気持ちも理解できるようになる”“トラブルは話し合いで解決できるようになる”と、けんかも少なくなり友達と仲良く遊べるようになっていくと思います。ただ、現在のお子さんの行動が改善していくには長い時間がかかります。その間、保護者の方もご心配ですが、お子さん自身も「またやってしまった」と、辛い気持ちになることもあるでしょう。焦らずゆっくり長い目で対応してください。また、成長が見られた時にはたくさん褒めてください。お子さんにとって、褒められ認められることは嬉しいことです。“できた自信、褒められた喜び”が次のお子さんの成長のステップにつながっていきます。

園の先生にもご相談され、園と家庭と双方でお子さんの育ちを見守っていくことがよいと思います。

言葉がでない、言葉はでるが自分の気持ちをコントロールできずトラブルが多い、自分勝手な行動が多いなど、ご心配が続くようでしたら近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）などにご相談してみてもいいでしょうか。



Q 友達に同意ばかりして意見を言わない

友達と一緒に遊ぶのですが、同意ばかりして自分の意見を言えなくて、人の後にばかりついて行動しているようです。友達の中でも自分の気持ちを相手にはっきり言える子になり、友達との遊びも楽しむことが出来るようになるためには、どうしたらよいでしょうか？

A 嫌な時は嫌と言うことの大切さを知らせてください

きっと、優しく自分の思いを相手に伝えることが苦手なお子さんではないでしょうか。お子さんは友達の中で一緒に遊ぶことが楽しいと感じていると思われます。友達と遊べない子もいますので、“友達と遊べる”ことは嬉しいことですね。また、子どもの性格は様々で、いろいろな性格の子どもが集まって子ども同士の友達関係ができています。今、お子さんは友達と遊ぶことを嫌がっていないようですので、あまりご心配はないと思いますが、同意ばかりしていないで、“嫌な時は嫌ということ”“悪いと思ったことはしないこと”“はっきり自分の意見、思いを相手に伝えることの大切さ”などをお話してあげてください。

また、お子さんが、自分の思いをしっかり伝えることができた時は、たくさん褒め自信をもたせてあげましょう。周囲から認められることで、少しずつ自分の行動に自信をもつことができるようになります。友達関係の中でも同意ばかりでなく、自分の思いや意見を言うことができると、対等な立場で遊ぶこともできるようになっていくのではないのでしょうか。

ただし、保護者の方が考えているように振る舞えないからといって、お子さんを責めるのは逆効果です。この機会にお子さんの魅力やよい面を認めて自信をもたせてあげましょう。友達関係や遊びの様子など園の先生にもご相談になり、焦らずゆったりした気持ちで関わり、成長を見守る姿勢が大切だと思います。

お子さんの状況が変わらず、ご心配が続くようでしたら近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）などにご相談してみてもいいかもしれません。



Q いばったり意地悪をしたりする

お山の大将で、とても強い口調でいばったり意地悪したりするので、「〇ちゃん、いばるから嫌い」と言って友達が一緒に遊んでくれないようになりました。友達と仲良く遊べるようになってほしいのですが、どうしたらいいのでしょうか？

A 課題や問題点を共有し考えていきましょう

とても元気のよいお子さんのようですね。

3歳頃のお子さんは自己主張が強く、「お山の大将」のような行動が見られます。この年頃の子どもは、友達との関わりの中で自己主張をぶつけ合い、悔しい経験をしながらも相手の主張を受け入れたり、自分の主張を受け入れてもらったりする経験を積み重ね、きまりの大切さや他者と協調して生活していく大切さを学んでいきます。

お子さんが、「友達がなくてとても寂しい」と、感じているようでしたら、お子さんの気持ちをしっ

かり受け止め、お子さんの行為で一緒に遊んでくれる友達がなくなった状況や、「どこが悪かったのか」「なぜ友達が遊んでくれないのか」などを、話してください。そして、“友達と仲良く遊べる手立て”を一緒になって考えてあげましょう。

4～5歳頃になると少しずつ相手の気持ちが理解できるようになります。集団のルールがあることも分かるようになり協調性や社会性を身に付けていくようになります。また、言葉の理解ができるようになることで「どうしたらよいか」などの手立てや解決の方法なども、「〇〇したらいいんじゃないかな」などのヒントをもらいながら少しずつ自分で考えられるようになっていきます。保護者の方がお子さんのよい面を十分に認めながら、お子さんと一緒になって課題や問題点を共有し考えることがとても大切なことだと思います。

お子さんは今、様々な経験を積んでいる学びの最中ですのであまり焦ることはありません。すぐにはお子さんの行動も変わっていかないかもしれませんが、焦らずゆったりとした気持ちで見守っていきましょう。



Q 分けっこができない

おもちゃでも何でも独り占めして、おやつでも何でも独り占め、分けっこできません。どうしたらよいでしょうか？

A 分けっこをして楽しく遊ぶ経験を増やしましょう

お子さんは、自我が芽生え、何でも「自分で」「いや」などの自己主張も強くなってきた頃でしょうか？

3歳頃のお子さんの遊びの多くは場を共有しながら、それぞれが独立して遊んでいます。そして、その中で、他の子の遊びを模倣したり、遊具を仲立ちとして子ども同士関わったりして遊ぶ姿も見られます。時には、おもちゃの取り合いからけんかになることもあります。少しずつ友達と分け合ったり、順番に使ったりするなど、きまりを守ることを覚え始めます。

また、自我が形成されるにつれて、自分についての認識と共に、家族、友達、先生などとの関係が分かり始めます。周囲への関心や注意力、観察力が伸びて、気付いたことを言葉で言ったり、遊びに取り入れたりしながら人との関わりを育み、様々な遊びを繰り返しながら社会性を身に付けていきます。

“分けっこができない”ことも、成長の一過程と捉え、焦らず根気よく接し、見守っていく姿勢が大切だと思いますが、“分けっこをする”“貸してあげる”などの具体的な方法を知らせていくことも大切です。例えば、おやつの際に袋に入っているクッキーを兄弟のお皿に半分ずつに保護者の方が分けてあげたり、1本のふかし芋を半分ずつに分けて食べたりするなど、美味しいものをみんなで分けて食べる経験をすることもよいでしょう。また、保護者の方も一緒に遊びながら、ブロックなどのおもちゃを独り占めしないで友達と遊んだり、半分は友達に貸してあげたりするなど、友達と楽しく遊ぶ経験をしていくとよいと思います。他にも、生活の中で、お子さんが“分けっこ”をする経験を少しずつ積み重ねていくことが大切です。そして、“分けっこ”ができた場面ではおおいに褒めて、“褒められたうれしさ”や“できた”という自信をもたせてあげましょう。

保護者の方が、お子さんのよい面をたくさん認めながら自我の育ちを積極的に受け入れることで、お子さんは自分に自信をもっていく一方で、自分の行動の全てが受け入れられるわけではないことにも徐々に気付いていきます。焦らずにゆったりとした気持ちでお子さんの成長を見守っていきましょう。



Q みんなでやるのが苦手で、仲間に入れない

園に行くのは嫌がりませんが、いつも一人遊びをしているようです。仲間に入ろうとせず友達の遊びを見ていたり、遊びに誘っても入らなかったり、みんなで一緒にやるのが苦手なようです。友達と仲良く遊んで欲しいのですがどうしたらよいのでしょうか？

A 一人でも楽しく遊んでいることが大事です

お子さんはみんなと一緒にやるのが苦手でも、一人で好きな遊びを見つけて楽しんでいるようですね。3歳頃の子どもの遊びの多くは、場を共有しながらそれぞれが独立して遊ぶ姿が多く見られます。この年齢では、仲間に入らず一人遊びが多くても心配なさらなくてもよいと思います。自分の好きな遊びを楽しみながらも他の子の遊びを見ていたり、模倣したりしながら、おもちゃを仲立ちとして友達と関わっていく姿が見られるようになっていきます。友達との仲間に入なくても「何をしているのかな？」「おもしろそうだな」と、様子を伺っているのかもしれませんが。「入れて」「一緒に遊ぼう」などの言葉で相手に自分の思いを伝えることができるようになり、先生や友達からも「一緒に遊ぼう」「○○しよう」と、誘ってもらい、友達と一緒に遊ぶ楽しい経験を繰り返していくことで、「みんなと一緒にやるのが楽しい」ことになっていくと思います。

4～5歳頃になると、友達との遊びが楽しくなる時期ですので、この年齢のお子さんでしたら、まずは「なぜ友達の仲間に入って一緒に遊ばないのか」お子さんの気持ちを聞いてください。一人遊びが好きなお子さんもいますが、何か友達と一緒に遊ばない理由があるのかもしれませんが。話を聞いて解決できそうなことは解決できるとよいですね。

園に喜んで登園し、みんなと一緒になくても自分のペースで生活ができ、一人でも好きな遊びを見つけて遊んでいるようならあまりご心配ないとは思いますが、一度、園の先生にご相談され、お子さんの気持ちも伝えながら、園と家庭と一緒にお子さんの様子を見守っていかれたらいかがでしょうか。

お子さんの状況が変わらず、ご心配が続くようでしたら近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）などにご相談してみてもはいかがでしょうか。"



Q 異性とばかり遊ぶ

男の子（女の子）ですが、男の子（女の子）の遊びより女の子の遊びが好きで、女の子（男の子）とばかり遊ぶので心配になります。どうしたらよいのでしょうか？"

A 男女を問わず楽しく遊べることを認めましょう

幼児期は男女の別にかかわらず、好きな遊びを見つけ、気の合った子と一緒に遊びます。活発なお子さんは、戸外で遊具やボール遊び、集団ゲーム、木登り、縄跳び、鬼ごっこなど、園庭を走り回り体を動かして遊びます。静かな遊びの好きなお子さんは、室内で絵本を見たり、ブロック、積み木遊び、パズルなどを喜び、園庭に出ても庭の隅で虫取りをしたり、色水遊びを楽しんだり、砂場でままごとやおだんご作りをしてじっくり遊びを楽しんでいます。一緒に遊んでいる友達も、特定な仲良しだったり、数人のグループだったり、男の子同士だったり、女の子同士だったりします。男女混合グループで入り

混じって遊びを楽しんでいる子もいます。

自我が形成される3歳頃、自分の認識と共に、家族、友達、先生等の周囲への関心や注意力、観察力が伸びていきます。男女の違い、家族に中でお父さん、お母さんの役割の違い、おじいちゃんとおばあちゃん、お兄ちゃんとお姉ちゃんの違いなど、生活や遊びの中で少しずつ気付いていきます。遊びやおもちゃに限らず、色、形、物の好みなどそれぞれのお子さんの感性の違いで様々です。あまりご心配なさることはないと思いますが、男女の違いにこだわらず、お子さんが好きな遊びを見つけ友達と楽しく元気に遊ぶことができることを認めてあげ、成長を見守っていかれたらいかがでしょうか。



Q 特定な子とばかり遊ぶ

仲良しのA君ととってもよく遊ぶのですが、A君以外の子とは遊ばなくて、A君が休むとポツンと一人遊びをしているようです。どの子とも仲良く遊べるようになってほしいのですが、どうしたらよいでしょうか？

A 特定な子から交友関係が広がります

とても気が合う友達ができよかったですね。お子さんは、集団の中でA君をきつと心のよりどころにして頼りにしているのでしょう。A君がいない時には一人遊びをしているようですが、これから様々な遊びや経験をしていく中で、少しずつ遊びが広がっていきます。遊びの広がりと共に、交友関係も広がり、A君以外の友達も少しずつできていくと思います。

今はA君という友達ができ、一対一の間接を楽しみながら絆を深めている時期で、この関係がとっても快いものだと思います。この関係を十分楽しみ深めることが、次の友達関係の広がりにつながっていくと思います。A君との関係をきっかけに、友達と一緒に遊ぶ楽しさや喜びを体験し、他の子との関わりや遊びも少しずつ見られるようになり、友達関係は広がっていくようになると思われれます。あまりご心配なさらず長い目で見守ってあげたらいかがでしょうか。



Q 気の強い子が苦手

少し内気で自分の気持ちをなかなか出すことができない子です。園にはリーダー格のA子ちゃんがいて「A子ちゃん怖い、園に行かない」と、言います。家庭では、母親に嘔み付き気持ちが不安定です。自分の思いを出し友達と遊んでほしい。A子ちゃんとも仲良く遊べるようになってほしいのですがどうしたらよいでしょうか？

A 園と協力して不安を解消することから始めましょう

元気がよくてリーダー格のA子ちゃんの存在に威圧感を感じ、自分の思いを言えず、家庭で保護者の方に不安な気持ちをぶつけているのでしょうか。ご心配ですね。

まずはお子さんの気持ちと家での状態を先生に相談してみてください。園と家庭との連携がとても重要になります。先生に相談しながら、お子さんの不安を解消していくことがよいと思います。

不安を解消するためには、A子ちゃんと仲良くなるのが一番ですが、最初からは難しいことだと思いますので、まずはクラスの友達と楽しく遊ぶ経験をする必要があります。先生に援助してもらいながら、友達の中で楽しく遊ぶ経験を少しずつ増やしていかれたらいかがでしょうか。先生も交えて

友達と遊ぶ経験を積み重ねていくことで、友達との遊びが楽しくなり、友達の中でも自分の思いを少しずつ出して遊べるようになるかと思います。

そして、お子さんの様子を見ながら、少しずつ A 子ちゃんにも、「一緒に仲良く遊んでほしい」旨を先生から伝えてもらい、最初は先生に仲立ちになってもらいながら、一緒に遊んだり活動したりする機会を増やしていくのがよいと思います。A 子ちゃんはお子さんに意地悪をしていたわけではないので、お子さんが A 子ちゃんと一緒に遊んだり、活動したりする経験をしていく中で A 子ちゃんのよい面がわかり、苦手意識がなくなれば、A 子ちゃんの存在に“怖さ”を感じることも薄らいでいくものと思います。

A 子ちゃんと遊べるようになるには時間がかかるかもしれませんが、ご家庭でも保護者の方がお子さんに A 子ちゃんのよい面を伝えたり、A 子ちゃんのお母さんをお願いして、お友達も交えて一緒に遊ぶ機会を作ってもらったりして、お子さんの A 子ちゃんに対する苦手な思いを取り去っていくことが大切です。A 子ちゃんへの苦手意識がなくなり、他の子とも遊べるようになれば、喜んで登園できるようになるのではないかと思います。

園での生活や友達関係のことは先生にお願いし、ご家庭ではお子さんの不安な気持ちを優しく受け止め、園と家庭の双方でお子さんの不安を解消するための手立てを考えてあげることで、お子さんの状態は改善されてくることと思います。焦らずゆったりとした気持ちでお子さんの成長を見守っていかれたらいいでしょうか。